

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	皮膚の腺癌の化学療法・免疫療法 皮膚悪性腫瘍に対する化学療法及び免疫化学療法の適応と現状 乳房外パジェット病・汗腺癌	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ11-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2004075693	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	2	
	ページ	93-98	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	宇原 久	信州大学医学部皮膚科
	その他著者 1	斎田俊明	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病および皮膚の腺癌に対する化学療法の文献的レビュー
	データソース	医中誌
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	Key words 乳房外 Paget 病, 化学療法
	主な結果	乳房外 Paget 病の原発巣および転移巣に対する化学療法で長期の寛解が得られることは極めて稀であるが、VP-16、Docetaxel、CDDP+5-FU などの持続少量投与は有害反応が少なく、QOL の改善が認められることがあった。また、ホルモン療法、Herceptin、Bisphosphonate などが新しい治療法として注目される。
	結論	各種治療法の有用性を検証するためには、進行期症例におけるさらなる検討が必要である。
レビューワーコメント	備考	乳房外 Paget 病、CQ10 文献 2、CQ11 文献 1
	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） 乳房外 Paget 病に対する化学療法について内外のごく最近までの文献を網羅した総説。しかし、参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低い。本症の報告が少ないことを勘案すると、現時点ではシステマティック・レビューに準ずるものと評価した。